教師とは「気づかせ屋」

希代の名監督、野村克也監督は選手育成の方針として次のように述べています。

「1つ教えて、9つ気づかせる。

自分で考え、自分で答えを見つけなければその選手は伸びない。」

そして、メジャーリーグには「教えないコーチが名コーチ」という格言がある。それに比べて日本のコーチは「熱血指導」など教えすぎるところがあるが、それでは選手のためにならない。

選手に何が足りないのかを考えさせ、アドバイスし、ヒントを与える。正しい方向に導いていくのが、監督やコーチの仕事だ。しかし1から10まで、手取り足取り懇切丁寧に教えていたら、選手は考えることをしなくなる。監督は、気づかせ屋でなければいけない。

1つ教えて9つ気づかせる。選手が成長するために、気がつくように仕向ける。 自分で考えて、答えを見つけなければ伸びない。そして、考え方のエキスを注入していく。

選手は自分のことを、わかっているようで、意外とわかっていないものだ。 ちょっとしたことがきっかけで、ガラッと変わることが多い。そのために、選 手をじっくり観察して、何が足りないかを探し、隠れたままになっている才能 を引き出すことが大事になる。

私たち木田幼稚園の幼児の教育の考えも全く同じです。私は教師、保育士に「お子様のお尻を支える様に手を添えて! 決っしてお子様の手を持って引っ張ってはダメです。」と強く申しております。

教師・保育の仕事はそのお子様のこころに「やる気や興味の火」をつけてあ げる事と確信しております。園ではいろいろな経験、体験を通してお子様の成 長を願い、私たち教師、保育士もともに成長させていただいております。

ぜひ、ご家庭でもお子様自身が「気づく」様な家庭教育をなされます事を願っております。